





篋友撰庵

主

湖麻二にし 野の北中

柳々庵



いさふたひるふ 嘆ぬはむん

芭蕉翁

夕うほや 秋の庭より 来りし 鳥

麦林庵







胡新や官の御ユリと際との

阿とうはや赤にかゝる人あし

三井や 彦次 小田 根よかへ

あとう不戸 子実 竹竿の隠れ

阿は鳥や 百夜 多りの果ぬら

釣の回や 泣り 淋し 日付も

畜生 死や 中々 以境、まねう

古物

古草

心法

赤山

虎後

怡山

善牛

空花

阿とうはや 終ふ 嘆て せむしの

子舞や 月子 ぶきて 日下 隠し

あとう 田や 土く 一寸と 一むう

釣鳥や 中々 終つ 果し

阿とう 不や 人の ち 終る 改

胡鳥や 日新 へ ち 終る 八折

阿とう 回と 言 佛の まし 不 止

子味 又 ち 終る 化 終る

依之

如柏

垂櫓

双鳥

其苗

祇堂

喜植

赤坡



胡のほや 一掃り 寄る 不とけ

子孫や 唐より その日く 暮ま

朝のや 露りぬもの ちちへし

向さ 顔や 新海 海子 暮れ

あさ 夕ほや 一ト 暮く のちへりむ

向さ 鳥や 垣の 隣ハ 暮れ 家

子孫や 守も ば 暮る 時く あり

胡のほや けりふ ば 杖も 掃る あり

遠のほや

友達

任阿子

具和

子鳩

百井

翠山

市道

上阿茶

麦打

次雁

子孫や 鳥り 起く 人よ 始

向さ 夕ほや 暮の 終ハ 暮れ には

胡のほや 柳り 吹ぬ 枝も けり

子孫や けりく のや には 暮れ には

向さ 鳥や けりく のや には 暮れ には

朝のほよ 白へし 暮の 暮れ には

暮れ 夕ほや 暮の 終ハ 暮れ には

向さ 夕ほの 暮れ 終ハ 暮れ には

女

始月

早暮

色如

系輪

出ぬ

斗者

琴枝

蝶麦

海

子鳳



阿さうはや子母あす牛又這わう

子母や和のうさくに笑跡り

胡うはや狗善月あ恥うーま

阿さ鳥や起女隣り笑てあふ

阿さうはや和りハもよ持女命

阿さうはやむとくくの胡からう

胡うはやほくあふ本の故うり

阿さうはよあふのうあそくううれ

只言

胡言

琴之

素海

法九

文系

可風

和系

阿さうはやよそくゆくとあハあれ

阿さ鳥や子とせ一胡言のう

子母やその日くのうあとの

阿さ教やあふも阿さハあぬう

胡言や衣の袖を町く子ん

阿さうはやあふのううと一さうあ

子母やあふあふと阿さうあ

阿さ鳥やあふあふと阿さうあ

イセ

二日坊

重縁

巴新

二調

うあ

九丈

崇故

希因

幸名

加賀



阿さうほや西しハ季の人ま〜い

胡鳥や露のけしひまふき跡り

子孫や宮子斬一の味ま〜い

阿さうほや雪よとまての守ハ七〜

あさうほやかこぬ松のえうちん

納鳥や阿さ〜く〜ま〜る〜あ〜の〜乳

胡うほや守子の葉し味持ひ

阿さ露戸木を流〜く〜う乳楢〜く〜ま

杉

素園

すへ

之甫

六取き

八水

雨夕

加水

路長

富山

麻又

子孫 平凡の阿る〜く〜故帳持掃

阿さうほや人ハ志難〜く〜多〜

納款ハ阿さむち故帳を尋むまて

阿さ鳥や聖ハ事〜して〜又家〜後

阿さ露や故帳〜く〜指と打て雪

胡うほや相立喰ふ〜あ〜飲ハ好〜

阿さうほや人〜り〜く〜守味習ひ

季生不又宿以〜く〜日と比〜く〜梨

嵐如

尤右

桃只

東起

祖川

把春

二方

風歩



万燈ハ、これ胡か不とりり又まり  
何さう月やむつハ日の月又まり  
胡鳥や起ておとろく風はる  
あさうやあま人もよ起て出家  
子孫や目又見へる不とりり長一  
阿さ鳥やほむ工學とくま  
胡鳥や市の埃をまゝぬき  
朝か不や蚊と喰とくぬはしれ

文之

吏兆

若風

东柯

黒花

玉弁

白椎

烏角

子孫やまゝよきて舞々録も有り  
阿さ鳥や鏡臺の粧もく明き  
朝か不や日よく不の新しき  
あさ鳥や後よきや系小提灯  
子孫や女子は返る舞も有り  
朝鳥やかまゝくはく録も有り  
阿さ鳥や珍と舞とせて新明き  
朝か不や奇舞とくも明き

滑川

松雨

珠塔

李夫

十彦

儿好

飛彈山

兔末

曾句

竹母

美信大伝

陸五



阿さ鳥や 清き月一てハ鳥にも清

鳥六

幸生花や 日みく花口の欠ハ折

幸吹

阿さうほや 鳥も大平の 香所

鳥

子孫や 草めてその系統親よさけ

紫曉

朝鳥や 故も瑞花のたりに清き

和犯

子孫や かけ縁一りハ鳥幕すま

不礎

阿さ花や 月日のるど清の窓り

儿帆

朝う日や かんといはく 鐘能み

宗友

子孫や 子いば美より 秋日和

己友

阿さ鳥や 森も清く 壺をそく

青龍

朝うほや 緋よほてし 清く

也有

阿さ鳥や そのふれ垣よ 咲て清

外至

朝鳥や 扇よ系せき 隙も清

秋棋

朝う日や 葉表花を 豊中く又く

江卯

阿さうほや くくうふ 寧り 鐘の音

此路

朝う日や かんてん 子中よ 爰か

夫由



新秋や 始りて 伊と 伊と 伊と

早き日 中不の 新は 始りて 伊と

阿さう 白中 公 伊と 伊と 伊と

あは 鳥中 多 控 伊と 伊と 伊と

新う 始りて 垣 伊と 伊と 伊と

新秋の 秋中 伊と 伊と 伊と

阿さ 鳥中 伊と 伊と 伊と

胡鳥 中 伊と 伊と 伊と

新秋 中 伊と 伊と 伊と

胡鳥 中 伊と 伊と 伊と

阿さ 鳥中 伊と 伊と 伊と

素牛 中 伊と 伊と 伊と

胡鳥 中 伊と 伊と 伊と

新秋 中 伊と 伊と 伊と

阿さ 鳥中 伊と 伊と 伊と

阿さ 鳥中 伊と 伊と 伊と

意

巴文

桃右

似扇

以吹

風洲

桂甫

芳秋

伊と 伊と 伊と

伊と 伊と 伊と

伊と 伊と 伊と

伊と 伊と 伊と

伊と 伊と 伊と

伊と 伊と 伊と

伊と 伊と 伊と

伊と 伊と 伊と



子孫やまはしむくまはくらくら

八甫

阿さ良の物麻又うそをるの奥

蒲麻

胡うかり子とかけ糸乳けお石

糸秋

子孫や余は目も物くぬ吸付く

淡巴

阿さ良のまの伝子やふ配り

竹抄

胡うほや垣根よあつむ虫結草

肥大村  
桃葉

阿さ良や障目と何にもあまて

虎山嵐

おさうほや母のワッせのまきや

梧麻

阿さ良や入あの起るうひ

馬束

胡新や明早むもの清洲

晴陽

おさうほや乳のうひをさるま

五木

朝良や家もまねあふ麻も

赤間堂  
麦仙

二葉やまふハ孫ちのるま合に

昇乙

阿さうほやはまも眠ふうりも

色垣日田  
筆下

朝良や蔓の節も阿やうす

雪貞

阿さ良や胡うに力な鏡と

風序



胡よりや花をさきく口ふささき

飲之

朝鳥の花や日陰に座りかゝれ

其妻

雨さ散や秋らと雨ハワハひすて

漫水

あさか不や秋をくく秋むの豆

哲九

子孫や若てはくやひき事秋ゆみ

燕士

雨は鳥やあるぬ鹿をうしろ楯

秋吹

朝よりやまきのふの彼を延くくせ

嵐吹

知らばや秋のむ鹿に起て思ふ

桃谷

唐内

胡よりや花の日影をふとせとん

徳考

雨さ鳥や秋まゝ鹿の証も今

銀海

朝散や凡鳥のか減をせし合せ

梅二

子孫や若くは若くするに若くし

雨雨

雨さ鳥や雨さ鹿のぬぬは公尼寺

里書

朝よりや花の色はくふふはく一配き

桂夕

雨さ散や花の母の塘のほくぬくも

其妻

子孫やい乃ち長きも居るも秋

斗周



胡のほや構受りすそり合は  
子集や錦竹何れをさくぬえ  
物か不ふ方に使む風をさへり  
阿の鳥や厚くてぬ中七垣一室  
朝鳥やまけく堤りのちうぬら  
常生花も眠ふ日とけり言碎

可由

一輝

素白

お梅

園子

苑鳥

皇顔

皇のほや朝夕いと陰もけり  
古池花もあけぬ水も月  
望持と近ふまゝさけり  
まてしと去れく極下より  
十六朝り高るるうもたふ  
此巻よけり縁ハ

へ庵  
麻文

苑乙

左右

玉芥

二方

番子



平一の子六ちろく此好を少のすく

少くく唐ハ聖く色きふ

家婿子日和のト々所りひせと

忠婦を除き脱しかりとの

拙訂の婦くハ知ふ意らし

校う伎進ていろく去所は

煤拂又向ら向く居死皇の

神子の男此を嘗ふて見

朱起

冬朱

吳雨

父

乙

右

奇

方

水囊より樽を入かて投きふく

くふ學さぬくくう放れ

積初の積てもふに去、法せよ

ゆくと婦く其其其の初少

喜姑も其其其くく其其其

目をしきして軽りふく居れ

法くハ牛又そこ縁る造り意

春の事ふくくく布作を

子

記

若

雨

父

乙

台

奇



瀧頂を仕りて人々仲より  
 筆紙回へし松蔭へれ  
 語の邊今より歌をほきてよ  
 そうしきまぬ頃戸の越日  
 坂と山と松にもよやく行拭ひ  
 筆も巻くに朝の夕の巻  
 子法もまゝくほめくあゝうら  
 子法の版もまゝく家福と  
 方 子 起 朱 雨 又 乙 右

時うねぬ川ぬまのつやらうに  
 流り 筆と紙<sup>キ</sup>を内よ  
 還俗とすけん能はる眼はめく  
 茶碗酒てゝあな紙しり  
 分根して芭蕉とちん人の茶  
 清くくりし里くくしす  
 方 子 起 又 執筆



皇衣や帝氣流河もたそろしき  
 山龍のほや寺子隠れく橋下  
 毛の島や負ひ織まて龍川の江  
 星かみや洲田はけりハ近き水と  
 志ののほや藻を刺るまのち捨て置  
 皇衣や海へいりいりいり  
 皇のほや人々木陰をぬむ河  
 鏡子花や扇の風もたついわよ

嵐和  
 其多  
 二鳥  
 市又  
 又若  
 黒子  
 草阜  
 土芥

皇のほや皇衣流河もたそろしき  
 山龍のほや寺子隠れく橋下  
 毛の島や負ひ織まて龍川の江  
 星かみや洲田はけりハ近き水と  
 志ののほや藻を刺るまのち捨て置  
 皇衣や海へいりいりいり  
 皇のほや人々木陰をぬむ河  
 鏡子花や扇の風もたついわよ

滑川  
 鳥角  
 羽浴  
 二鳥  
 李夫  
 康工  
 心法  
 和翠



空のほり 汗のや 衣もゆるり  
 いはのほり 巾の 端もぬ 笑とらぬ  
 花も可憐の 笑より 佐乳か  
 空顔や 大工の 笑の一 巾とみ  
 空の空や 野老ハ 志を ぬきり  
 いはのほり 又 表姑の 糸く  
 空の空や 杖 持よ 志を ぬきり  
 空の空や 思 附く ぬきり

民石

栗丈

農父

升介

警備

赤空

過江

杜考

鏡子花 巾の 巾 暑は 果も 見に  
 いはのほり や 体も 晒 暑 白く 梓  
 空の空や 録の 平 初 終 終 終  
 いはのほり や 舞の 終 終 終 終  
 空の空や 水も 終 終 終 終  
 いはのほり や 舞の 終 終 終 終  
 空の空や 舞の 終 終 終 終  
 空の空や 舞の 終 終 終 終

貞吾

巴角

美川

傍南

一有

周作

古生

有瑞



皇のほやとろくはあしとらふ令を  
いれよほや眠まねまの伽子所く  
皇のほや風不しるれ了了の耳  
皇のほや何れくもほす侍尔杭  
皇のほやほよほとり小石川  
皇のほや帆りきて之橋然里  
皇のほやまうく繩のまくま  
皇のほや座て居れ牛の陰くり

尾法

也有

飯田

時表

海賀

和根

阿豆

相雨

治

鯉爰

用舟

牛宮や皇のほり美取は  
皇のほやはまき橋り水がみ  
皇のほや縁もまけをまい  
皇のほや花の中も咲か  
皇のほや又馬を采も杭より  
皇のほや舟も新の歳と時  
皇のほや子母の橋のたを後よ  
皇のほやまうくせぬまのち

尾

法九

担任

宗園

女

十

之甫

大聖寺

對井

路長

哥床

城府中

可兮



いぬのほやまてやまろふ山の嶺

まのほやまてと妹の源氏方

まのほやまて水壺とまの桶は才

まのほやまていづれのかうい

いぬのほやまてのまの川原を

まのほやまて頃城町のまのま

いぬのほやまてのまのまのま

まのほやまてまのまのまのま

まのほやまてまのまのまのま

新厚

章流

佐渡郡

北之環

坂内

鳥茂

宇七

一平人

大村

湖月

日四

時人

可管

李舟

府内

一の樂

素

和井

素

桃谷

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素

素



ひねうほり雪も吹くり春もり

出玉

可白

まろや二木のやち梅の傍一ふ

梅葉

月戸

ひるうほや名もまろり丸木橋

五壺

まろやけよとのあまはぬ

咲女

まろや鳥も砂りりぬとよ

梅ら

まろはや川原の院ハまろり

上人

友之

いれふやまろり横くふ村の境

湖や

歌仙

まろはや梅もあまらぬ仙貝

舟茂

儿帳りあまぬ幕の涼風

一の由

あまらぬ女の緒あまらせく

斗圓

あまらぬかへく茶は飲らり

五壺

あまらぬてかろり子もあまらぬ

茶里

あまらぬはなまらぬのふも

梅ら



ウ 蕪入の清見へ蟹斗ハを夜切

里々

仲え履れ今よえり

如水

化よのハ等本より点とけくく

一輝

ほぬそりりま星のり燈

団々

樽をハ除けて火燈り茶會い

お捨

ちひも勢を口てき入ふ

栗風

はうくと又にくと丁のお

洞免

燈つと樽を横り夕月

苑音

初ま既幸の音白りまゆて

蕪風

あひねりりりもそ分お元

埴井

相々の語にハとのおきもほり

奈風

あふれまよりほく一草

女  
出く

か一順



夕顔

夏信令

夕うほや夜半を夢何くく

杜若

唐の新葉又け方くの葉子

寸童

夢草も入るを夢白のち挿りて

東里

ふふいゝ旅とおもひ出とより

祐古

ほろろいゝまはくくもつゝ橋のそ

杜秋

名物古依よぬお摺初か

茶葉

了能尾も吹りりく飯々せり

有隣

読も夢ふ本曾の出女

如九

嫁入を夢も是より笑はれ

為浄

かきりと冨ちて夢は寝小

東枝

蟬の音おりよといと恥し行や

夏推

とふおしてと甘の葉い子

与由

阿さ息は頃乃奢り寝ふく

倭客

まわくしひひぬ十匹の被

松葉



名刀と破のやうきりくは

畔古

善も一好飛く止陰

貫利

善もし不嘆までハ等しく水く

如く

能受種よりきくしす

觀華

夕虫や生れとく思ふ女莫よ嘆

伊勢

如く

ゆふのほやさ節よくく成り了

寸童

夕顔や菱と栴を借て片く

杖秋

ゆふのほやさ節よく遠きと瓦屋根

有隣

夕のほやさ節のそりぬふはより

東里

ゆふ顔や嘆く通りハかき響は

茶菊

夕のほやさ節子も持ぬあしは

袖古

ゆふ虫やあしりんよ嘆のそ

如九



ゆふのほや鐘をすては白ひ

舟守

夕顔や日暮しをくぬき時分

東枝

ゆふのほや涼む女子の色黒し

傷客

夕のほや垣の向うも薄月夜

夏枝

夕のほやいとほしくは笑垣外

之歩

ゆふのほやとらとらと笑く風も好し

賀利

夕鳥の化格とくやしやめ如

松本

ゆふのほやととの玉葉と珠し

詮史

夕のほや萩の咲ても花れし

蒼芭

ゆふのほや隠舟平家もかきし

畔古

夕顔や移舟のまゝ風もよ

高士

ゆふのほやりふさふさと花もよ

湖夕

夕のほやのほりや花もよ

夏島

ゆふのほや写しをきぬ花の色

二日坊

夕鳥や折もこころとふの家

玉之坊

ゆふのほやくくひ方うらめて

巴翁



夕のほや 暇争ハあまの人の家

夕のほや 故きりの中よふきり

夕のほや 海うつゝきうてふ

夕のほや 糸の院もつれも

出女や その夕のほや 咲てあ

夕のほや 寄入出く居る 夢もも

夕のほや のふり 只新や 玉下道

夕のほや 々々 五糸等 既々

植女

植夏

糸海

文下

子風

一風

乾涸

未季

夕のほや 千葉表の赤も 咲て先せ

夕のほや の赤や 湯はうかき けり

夕のほや 寄りし 色の 浮ひより

夕のほや 異い はうりと 趣て 咲

夕のほや 扇の 日替 進つて やり

夕のほや 水より 終の 赤くも 咲

夕のほや 夏の 境りの 屋まで う

夕のほや 露の 暮る けり

風胡

杜若

岩州

巴山

赤六

赤人

梅二

此風



夕のふの家々〜披〜やうふき廻  
 夕のふの家々〜家々〜とゆ〜と〜  
 夕のふの家々〜家々〜と〜  
 夕のふの家々〜家々〜と〜  
 夕のふの家々〜家々〜と〜  
 夕のふの家々〜家々〜と〜  
 夕のふの家々〜家々〜と〜

東松 音梅  
 東圃 文洞  
 心法 時路  
 兼深 新口  
 彦平 北而

夕のふの家々〜披〜やうふき廻  
 夕のふの家々〜家々〜とゆ〜と〜  
 夕のふの家々〜家々〜と〜  
 夕のふの家々〜家々〜と〜  
 夕のふの家々〜家々〜と〜  
 夕のふの家々〜家々〜と〜  
 夕のふの家々〜家々〜と〜

新口 東圃  
 女 十人  
 重深 巨井  
 尾 伽凉  
 小松 升玉  
 大聖寺 喜郎  
 玉波 洞免



夕のほや実ハ編綴くいひ名はち

ゆふ島や舟乗よ並え疲てはく

夕のほやと物寄てんくま本賣

ゆふ船や一雙寄よゆかはひよ

夕のほやましくも入く十芳家

ゆふ島やむしりうの森むしり

夕のほや舟ハおく下そくみ

ゆふ島や陰よの傍む娘らり

ゆふのほや廊より只の家もりり

夕のほや鹽在中よ雲むしり

夕顔やほくハおもえしき

ゆふ島や子の這ふて花門邊

夕のほやふりきりきりきり

ゆふ顔や縁にも宿のかしきい

夕のほや蚊まりの蚊帳中よ候

ゆふ島やいりも油焚えつし

系玉

富山 麻文

朝川

函采

丈里

花乙

水橋 西右

木睦

今石動 左記

三山 眠呼

海前 舟朋

才村 松吾

百和

言松 漆枝

周西

あき天竹 世



夕島や文てい清き水なり

石見津和歌  
廿五  
大光

ゆふのほやけしりりり 折半まき

字七  
長守

夕島のほやけきりの音は鳴るより

大村  
里英

ゆふ島や鏡も入るききき縁

日四  
丸藤

夕島や折りしはききき縁

日四  
再々

ゆふのほやけきりをこらむききり

原此

夕島のほききりゆるや水のこ

きん

ゆふのほやけきりゆるききり

梨重

ゆふのほやけきりゆるききり

府内  
町人

夕島のほききりゆるききり

梅園

ゆふ島や縁しはききり

言四  
文鶴

夕島のほやけきりゆるききり

以長

ゆふのほやけきりゆるききり

杵築  
冬之

夕島のほききりゆるききり

葉里

ゆふ島や車とたろききり

里夕

夕島のほききりゆるききり

一壺



川よはや胃の住ぬ家も有り  
夕かみやまの、淋しき討り嘆  
横もやまも夕、ほのきつめ

里友  
洞免  
赤風

歌仙

夕らほや羽の是れ下りも  
世をふみ下り  
難き賣れ眠り紙等の句ひと  
越ひはるのま出まゝ新田  
日向のまをひ寝く寝の月  
梅のあがりて言はれらるゝ家ま

葉里  
升茂  
赤風  
一輝  
斗周  
洞免



和草を望みよ上り握華也

如水

和尚の条の寄りをたし家

栗瓜

紋川を忘るる茶ぬ暇去ひ

團子

借てくくくく画一ぬく

里文

煉掃も縁もくうりまきひやう

柳心

形くくくくくくくくくく

宿風

物くくくくくくくくくく

一由

泣りと袖子 夢車はる

如  
片く

大空司ま束くくくくくく

葉里

活以共くくくくくくくく

五壺

庭くくくくくくくくくく

苑鳥

娘菜のむくくくくくくく

お智

お一順

信友長平



